

New Products Review

これは買い!?
気になる新製品をいち早くテストする!



HTML3.2準拠でスタイルシート対応のページ作成ソフト
**Web Assistant/
EasyAuthor Ver.3**

子機同士でも32Kbps通信ができるPIAFS対応TA
INSメイトW1セット



PIAFSとOCNに対応し、独自機能も充実したTA
Aterm IT65 DSU



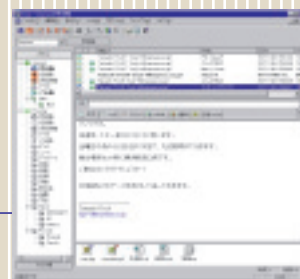
色がキレイな3倍AFズーム搭載デジカメ
DS-30



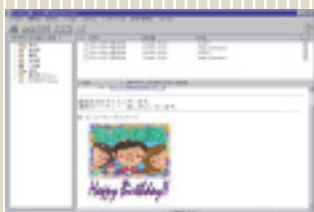
色階調の美しさとワイドズームが魅力
DC210 Zoom



添付ファイルの圧縮機能を持つメールソフト
E-mily



豊富な画像テンプレートでイラスト付きのメールを作成
メールの王様



ソフトのバージョンをインターネットで自動更新
Oil Change



HTML3.2準拠でスタイルシート対応のページ作成ソフト

Web Assistant/ EasyAuthor V.3.0

Check!

スタイルシートで自由にレイアウト
HTMLを表示させて細かな編集ができる
テキストファイルをHTMLに一括変換

「WebAssistant/EasyAuthor」は、ウィンドウ95/NT向けのホームページ作成ソフトだ。HTMLエディター「WebAssistant/Editor」、テキストファイルからHTMLファイルに変換するユーティリティー「WebAssistant/AutoTagger」、サーバー上のコンテンツを管理する「WebAssistant/Manager」、画像ファイルを開覧する「WebAssistant/ImageViewer」からなるパッケージだ。

プラグインのデータもサポート

「WebAssistant/Editor」は、WYSIWYGタイプのHTMLエディターで、文字サイズの変更、文字揃えなどがワープロ感覚でホームページを作成でき、HTMLを表示させてのページ編集もできる。リンクはキーワードをハイライトし、リンクウィンドウで、他のページファイルやアンカーを指定したり、URLを指定したりして設定する。サポートする画像ファイルの形式は、GIF、JPEG、BMPだが、BMP形式はページに貼り付けると自動的にJPEGに変換される。Javaアプレットの埋め込み、Java ScriptやVB Scriptを書き込むこともでき、Shockwaveデータなどのプラグインデータをページに貼り付けることも可能だ。また、文字列のスクロールといった機能もサポートされており、簡単にページに取り入れられる。

試用レポート

❗ WYSIWYG編集後に

HTMLの細かい設定ができる
スタイルシートに対応しているので、文字サイズや色、フォント、位置などのレイアウトに関する

情報をスタイルとして定義すれば、その定義を一部のページもしくは全ページで使うことができる。スタイルシートのサポートによって、ページレイアウトをこれまで以上に細かく設定できるようになる。

WYSIWYG画面のページを、HTML表示画面からも編集できるので、HTMLの書き換えによる細かい設定ができる上級者にも便利だ。編集したHTMLはすぐにWYSIWYG画面に反映されるので、HTMLをいろいろと書き替えて試してみるのもいいだろう。

また、フレームもサポートしているので、縦横に分割されたページの作成もできる。この機能をサポートするHTMLエディターはいくつかあるが、本製品は作成したページを「標準編集モード」と「フレーム対応モード」の2つのモードで保存できるので、フレームを使ったページを作成しながら、フレーム未対応のブラウザに配慮したページの作成もできる。

「WebAssistant/AutoTagger」は、テキスト形式の文書ファイルを、キーワード（たとえば「第1章」、「2-3-1」など）に基づいた変換規則で、タグの埋め込まれたHTML形式のファイルに変換する。

画像ファイルを表示するユーティリティーが「WebAssistant/ImageViewer」で、GIF、JPEG、BMPの各形式の画像ファイルを表示し、ドラッグ&ドロップ操作で貼り付けられる。

「WebAssistant/Manager」を使うとサーバーのディレクトリー上にあるホームページのファイルをエクスプローラと同じように扱うことができる。FTPによるアップロードとダウンロードや、ファイルのコピーや削除なども、ドラッグ&ドロップでできる。



発売元	株式会社東芝
価格	16,800円
問い合わせ	03-3457-3300
対応機種	DX4(100MHz)以上のCPUを搭載するウィンドウ95/NTマシン。16Mバイト以上のメモリと6Mバイト以上のハードディスク空き容量が必要。

URL http://www.toshiba.co.jp/about/press/1997_10/pr_j0601.htm

CD-ROM B収録先
Trial Win Webassis



WYSIWYGで操作でき、HTMLの編集も反映される。

❗ 既存文書データを

HTML化するのに便利

リンクの関連付けには、他のHTMLエディターに見られるアンカーアイコンのドラッグ&ドロップというビジュアル的な編集がサポートされておらず、アンカーを登録 キーワード選択 アンカーをリストから選択といった方法になる。少々面倒だが、アンカー名を意識的に付けるのであとで分かりやすい。

「WebAssistant/ImageViewer」は単独で使うことはない。「WebAssistant/Editor」でファイル形式の変換などに使われる機能を独立させたものなのだろう。「WebAssistant/AutoTagger」を使ってテキストファイルをHTMLに変換するためには、テキストファイルが章立てで書かれていなくてはならない。変換後に画像を貼ったり、リンクを設定したりする作業が必要なので、HTML作成の前処理にいいだろう。この機能は既存のファイルを大量にHTML化させるのに使えるかもしれない。イントラネットなどの社内ネットでのニーズはあるのではないだろうか。 (菊地宏明)

開発元	日本電信電話株式会社
価格	セット価格118,000円(単品価格 INSメイトW1-C: 60,300円、 Piet S300: 37,900円、 32K Piet DATA CARD: 19,800円)
問い合わせ	03-3509-8541
対応機種	ウィンドウズ95
付属品	ACアダプター、ISDNケーブル、 RS-232Cケーブル
URL	http://ced.nttca.com/isdn/wta1.html

子機同士でも32Kbps通信ができるPIAFS対応TA INSメイト W1セット

Check!

PIAFS対応の専用子機で通信可能
屋外では子機をPHSとしても使える
子機同士でも32Kbpsワイヤレス通信

セットは本体とPHS子機とPCカードからなる。本体底面は左からACアダプターポート、アナログポート、S/T端子、ISDNポート。RS-232Cポートは側面に配置。



NTTの「INSメイトW1セット」は、子機を最大6台まで増設できるワイヤレスTA「INSメイトW1-C」と、子機となるワイヤレスのデジタルコードレスホン「Piet S300」、それに32Kbps通信のための「32K Piet DATA CARD」の3点をまとめたセット。ホームユースから、LANを導入していない

スモールオフィスやホームオフィスに便利なTAだ。

内線データ通信は
子機同士で

本体(INSメイトW1-C)は、アナログポートとS/T端子をそれぞれ1つずつ持つベーシックなTAだ。DSUは内蔵していないが、普通のTAと同様にウィンドウズパソコン

とRS-232Cで接続してインターネット接続や通信が利用できる。しかし何といってもINSメイトW1セットの特徴は、子機(Piet S300)同士で32Kbpsのワイヤレスデータ通信ができることにある。子機同士の通信は内線と同じことなので、通話料金はかからない。ただし、子機と、本体に接続されたパソコンとはデータ通信はできない。

RS-232Cでの接続は、非同期38.4Kbps(V.110)と64KbpsのPPP接続(非同期/同期変換)までの対応で、128Kbpsでの通信には対応していない。

やはり目を引くのは本体に付いたアンテナだ。このアンテナで、子機を電話として使ったり(内線も可能)、データ通信をしたりできるのだ。最近のホームテレホンでもワイヤレス子機が複数使えるが、そのホームテレホンがISDNに対応して、ワイヤレス子機で通信ができるようになったと思えば分かりやすいだろう。子機で

のインターネットへの接続は、PIAFSか、親機のPIAFSから非同期38.4Kbpsへのプロトコル変換機能を使って、これらのアクセスポイントにアクセスすることになる。子機の登録は6台までできるが、同時に通信できるのは2台までとなる。子機からは同期64Kbpsが利用できないので注意が必要だ。

SOHOの環境で「ホームモバイル」用にこのようにユニークな機能を持ったワイヤレスTAだが、実際にはどんな使い方が考えられるだろうか。まず最初に思い付くのは、やはりスモールオフィスだ。たとえば、外出の多い数人のスタッフが居る場合、それぞれが子機を持つようにすれば、外ではPHSとして、社内では持ち運べる電話の子機として使える。もちろん、32Kbpsながらデータ通信も利用できる。

またホームユースでも、室内でPHSを子機として使えるINSメイトW1セットは便利だ。子機の電波は100メートルくらいの範囲ならカバーできるから、電話の配線工事が一切不要なホームテレホンとしても便利。この環境を作ってしまうと、ケーブルに煩わされず家の中のどこからでもインターネットが利用できるようになり、32Kbpsながら「家の中でもモバイル」という快適さが味わえる。

今のところ、データ通信が利用できる子機は「Piet S300」だけだが、NTTによると、そのほかのPHS電話機も子機として登録できるようにする予定があるとのことだ。技術的には問題がないらしいので、これが実現すれば今使っているPIAFS対応のPHSがそのまま使えるし、自由にPHS電話機を選べるようになる。

試用レポート

① 設定はいたって簡単

本体のRS-232Cポートを利用した通信は、本体につないだパソコンから、モデム設定ファイルを使って簡単にインストールできた。同期64Kbpsのアクセスポイントを設定するだけで、一発で接続した。

② 使いやすい設定ユーティリティー

設定ユーティリティーは、RS-232Cポートと接続したパソコンからTA本体を設定するものだ。各子機のダイヤルイン番号や、サブアドレスの割り当て、子機が圏外にあるときの自動転送先の設定など、便利な機能が満載だ。自動転送先をPHSの番号にしておけば、屋内では子機として使い、屋外に出るとPHSになり電話が転送されるという使い方も可能だ。これなら、相手にPHSの番号を教えなくても、勝手に転送されてくるから便利だ。

また、RS-232Cの通信条件やアナログポートの設定なども細かく指定できる。たとえば、アナログポートにつないだFAXを「FAX自動転送」に設定しておくと、FAXから子機に電話がかかってきたときにも、自動的にアナログポートのFAXに転送させることができる。

③ PHSからはPIAFSと

非同期アクセスポイントへ

子機からデータ通信を利用する場合には32K Piet DATA CARDを使って、子機とノートパソコンをつなぐ。このデータカードは、PHSの公衆モードでも利用が可能だ。接続先は、PIAFSが非同期38.4Kbpsのアクセスポイントになる。後述のFTP転送テストでも明らかのように、PIAFSではV.42bis圧縮が有効になるので、できることならPIAFSのアクセスポイントを利用したほうがスピードが速くなる。設定そのものはモデム設定ファイルを使った簡単なものだ。

子機から親機を経由した接続で、FTPによるファイル転送テストを行い、PIAFSと非同期38.4Kbpsについて測定した結果が右下のグラフだ。まず目につくのは、PIAFSでのV.42bis圧縮の効果だろう。圧縮のかけやすいテキストファイルで大きな伸びを見せている。一方、非同期38.4Kbps時のバイナリーファイルのアップロード速度の遅さについては、本体側のPIAFSから非同期38.4Kbpsへのプロトコル変換処理にロスが生じているのかもしれない。転送速度について言えば、PIAFSで使ったほうが良さそうだ。

④ 用途をうまく探し出そう

INSメイトW1セットにわりに近い商品に、岩

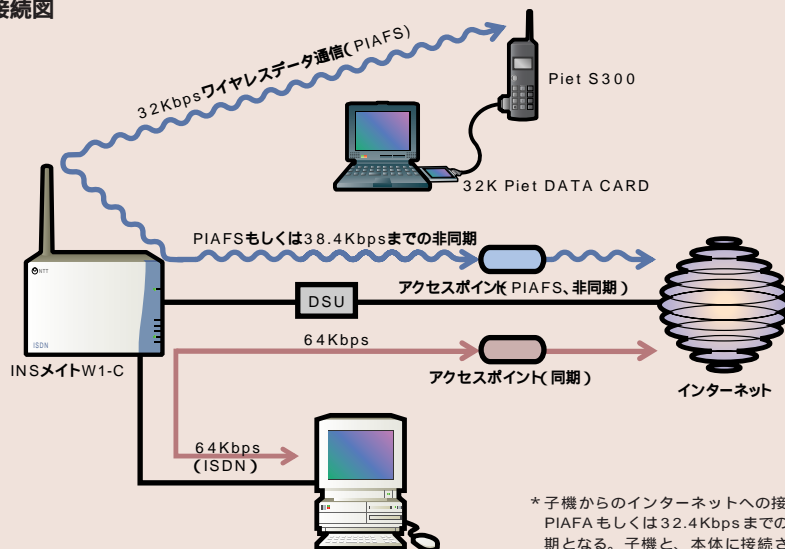
崎通信機株式会社の「ALION」(198,000円)がある。こちらはデジタル子機対応のISDNデジタル電話機として発売されているが、そもそもデジタル子機からの通信機能は持っていないし、値段もINSメイトW1セットにくらべて高い。その点でもINSメイトW1セットは、デジタル子機を積極的に使いたいユーザーにとっては待ち望まれた製品だろう。

また、子機同士の通信も可能なので、ウィンドウズ95などのダイヤルアップサーバー機能を利用した、簡単な無線ネットワークとして使うこともできるだろう。

INSメイトW1セットは、「デジタルコードレス電話専用交換機」として使うというコンセプトと、「ワイヤレスデータ通信TA」というコンセプトを合体させたものだ。それだけに、この機能を十分理解してうまく使い方を考えて欲しい。漠然とTAとして使うならば他の機種を選ぶこともできるし、ケーブルで配線するネットワークならダイヤルアップルーターという選択肢もある。子機と本体に接続されたパソコンとの通信は、「INSメイトW2セット」(126,000円)ならできるようになる。やはりINSメイトW1セットは、子機を使った通信をどう活用できるかがカギになるだろう。

(梅垣まさひろ)

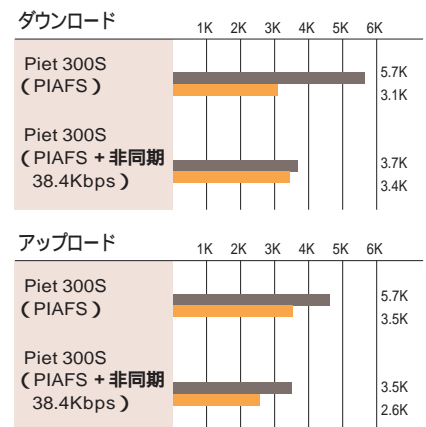
接続図



* 子機からのインターネットへの接続はPIAFSもしくは32.4Kbpsまでの非同期となる。子機と、本体に接続されたパソコンとはデータ通信ができない。

FTPによるファイル転送速度(バイト/秒)

■ テキストファイル ■ バイナリーファイル



テストはリムネット東京第三ドメインのユーザホストを利用し、Libretto 30(メモリー20Mバイト)を使用した。FTPコマンドで、テキストファイル(500Kバイト)、バイナリーファイル(500Kバイト)の2つのファイルをそれぞれ5回転送し、その平均を取った。転送に使用したファイルは、LHAで圧縮するとそれぞれ、42.1%、98.5%に圧縮されるファイルだ。バイナリーファイルはほとんど圧縮効果がないことが分かる。

PIAFS と OCN に対応し、独自機能も充実したTA

Aterm IT65 DSU

Check!

PIAFS と OCN に正式対応

TA を経由した内線や通信にも対応予定

USB ポートは将来の使用を見込んで

発売元	日本電気株式会社
価格	47,800 円 (DSU なしは 34,800 円)
問い合わせ	0120-498-563
付属品	ISDN ケーブル、RS-232C ケーブル、 D-SUB9 ピン変換コネクタ、 Mac 変換ケーブル、縦置きスタンド

URL <http://www1.meshnet.or.jp/aterm/product/it65/it65.htm>



視認性が高く、接続状態の確認がしやすいLCDディスプレイを搭載。

Aterm IT65 Pro の発売から4か月あまり。主な機能はそのままにProの文字を外し、S/T端子やUSBケーブルをオプションにして価格が安くなったAterm IT65シリーズが発売された。これから初めてTAを買う人や、USBを当面使うことのないユーザーには、使わないケーブル類が削られて求めやすくなった。DSU内蔵モデルが47,800円に、DSUなしが34,800円へと、どちらもIT65Proにくらべて15%程度安くなった。

Aterm IT65には、他のTAでは決してマネできない優れた機能が満載だ。

新たにPIAFSに対応

Aterm IT65は、PHSでの32Kbpsデータ通信規格であるPIAFSとOCNエコノミーに新たに対応した(Aterm IT65Proでは、ファームウェアのバージョンで対応)。これで、同期64Kbps、128Kbps、非

同期57.6Kbpsと併せ、TAとして対応

できるすべての接続形態に対応したことになる。もちろん、データの流量の変化や電話などの利用に対応してISDNのチャンネル数を切り換えるBOD(バンド・オン・デマンド)機能は用意されている。また、新たに対応したUSBでの接続では、パソコンの画面から簡単に64Kbpsと128Kbpsが切り替えられるようになった。

こうして見ると、パソコン通信からインターネット、そしてウィンドウズNTでのRAS接続サーバー用と、どのようなシーンにも対応できる万能TAと言えるだろう。

次期標準インターフェイス
USBポートを搭載

来年に発売される予定の「ウィンドウズ98」のプラットフォームであるPC98規格では、モデムやキーボードなどのインターフェイスがUSB(Universal Serial Bus)に統一される方向で進んでおり、最近発売されたパソコンにはUSBを搭載するケースが増えている。USBを使うと、シリアルポートでDTE速度の上限が115.2Kbpsになってしまう問題をクリアでき、128Kbpsの通信にも高速シリアルポートを用意する必要がなくなる。今のところ、USBを搭載したTAはこのAterm IT65シリーズだけであり、ウィンドウズ98での通信環境を先取りしたスペックは嬉しい。なお、最新のウィンドウズ95 OSR2でもUSBには対応しており、Aterm IT65シリーズも利用できる。OSR2での動作確認済みパソコンリストがNECのホームページ(http://www1.meshnet.or.jp/aterm/topics/it65usb_pc.html)に掲載されている。ただし、他のUSB機器をAterm IT65と一緒につなぐとウィンドウズ95がハングアップしてしまうことがあるなど、やはりまだUSBは完全ではないようだ。現時点ではRS-232Cで接続した使用が中心になるだろう。ただ、将来性を考えるとUSBポートが搭載されていることで得られる安心感は強い。

視認性のよいLCDディスプレイ

Aterm IT65 Proから採用されたLCDディスプレイは、バックライトがあるので視認性も高く、接続状況の確認がしやすい。Aterm IT55では、BOD機能を使って2B接続したときには「ピピッ」と音が出るだけだった。Aterm IT65のディスプレイのLCDには、接続の速度やチャンネルだけでなく、通信料金、アナログポートに接続された電話機の状態や設定などが表示される。もちろん、ISDNの電話番号通知を利用して、相手の電話番号を表示することも可能だ。また、

3つあるアナログポートの2ポート(A、B)はナンバーディスプレイに対応したもので、電話番号表示機能を持つ電話機を接続すれば、その電話機でも相手の電話番号を表示できるようになる。

便利なUIメール&UIメールサーバー

Aterm IT65には、便利なUIメール機能が搭載された。UIメールサーバー機能では、着信したメールの先頭100バイト(全角なら50文字)を他のAtermシリーズに自動転送したり、メールの着信を知らせたりする機能が利用できる。メッセージの確認や送信などは付属ソフトの「UIメール」で行う。この機能を使うと、本社に届いたメールを遠隔地の営業所で確認するといった便利な使い方ができる。

ISDNの「ユーザー間情報通知サービス」を使い、100文字までなら1回0.4円で送信できるUIメール機能は、親しい友人との連絡手段としても面白いだろう。Aterm IT65では、このUIメール機能を、まるでポケットベルのように電話機のプッシュボタンでも利用できるようになった。

高機能S点ユニットでさらに多機能

12月下旬発売予定の「高機能S点ユニット(PC-IT/UX1)」は、S/T端子につながっているのが他社のTAでも、TAを経由して内線通話や3者通話などが実現できるものだ。これは、Aterm IT65につながっているアナログ電話機から、S/T端子で接続されている他のTAのアナログポートに接続された電話機へ内線通話ができる機能だ。これで、「TAのアナログポートの数=内線通話できる電話機の数」という制限がなくなったことになる。さらにすごいのは、S/T端子で接続されたTA同士で64Kbpsのデータ通信が可能になるということだ。S/T端子を利用した簡易LANのような使い方ができるようになる。

なお、これらは98年3月に予定されているバージョンアップで加わる機能なので、一部内容が変わる可能性もあるが、これまでのTAにはなかった機能だけに楽しみだ。

試用レポート

① 面倒な設定の必要がない

「らくらくウィザード」

ドライバーのインストール作業は、すべて「らくらくウィザード」が面倒をみてくれる。アナログポートの設定から、ダイヤルイン番号、モデム設定ファイルのインストール、インターネット設定と、ほとんどの作業を自動処理してくれる。

文字どおりの「らくらく」さだ。特に、面倒なモデムの設定を完全オートで処理してくれるので、これなら初心者でも簡単に設定できるだろう。より細かな設定がしたい場合には、これまでのAterm ITシリーズ同様「らくらくユーティリティ」を使おう。こちらもGUIに変更が見られるが、これまでどおり詳細な設定が可能だ。

② FTPによるファイル転送テスト

FTPによるファイル転送テストを行った。テスト環境は右下にあるグラフの注をいただきたい。参考までに、Aterm IT55のテスト結果も添えた。Aterm IT65では、128Kbpsでの結果がAterm IT55にくらべてかなり良くなっている。Aterm IT55では、ファイルのアップロード時にTA内の処理が負荷となって、スピードが出ないという問題を抱えていた。この問題はかなり解消され、アップロードとダウンロードの差が縮まっているのが分かるだろう。

Aterm IT65は、機能の充実だけでなく、TAの基本的な性能であるデータ転送においても、しっかりと進歩を遂げていることが分かる。なお、高速通信ボードは株式会社アイ・オー・データ機器の「RSA-DV11/S」を使って測定した。

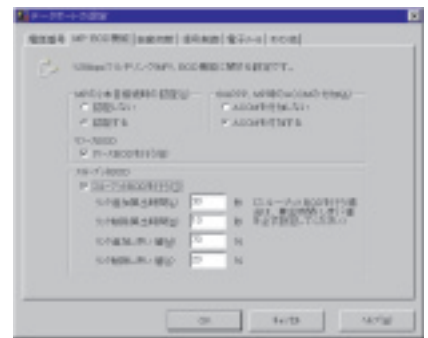
③ 完成度が高いオススメTA

これまでに発売されてきたTAの問題点を解決しながら、そこに新たな機能を加えることで、Aterm IT65は非常に充実した製品に仕上がっている。

USBポートの搭載や、S/T端子の充実した機能は、あとで「あれがしたい」「これがしたい」と欲が出てきたときも、そのニーズにちゃんと応えてくれるはずだ。また、高機能ながら初心者に優しい点も見逃せない。(梅垣まさひろ)



背面。右上から停電スイッチ、アナログポート3つ、USBポート、RS-232Cポート、電源スイッチ。左はISDNポートと極性反転スイッチ。

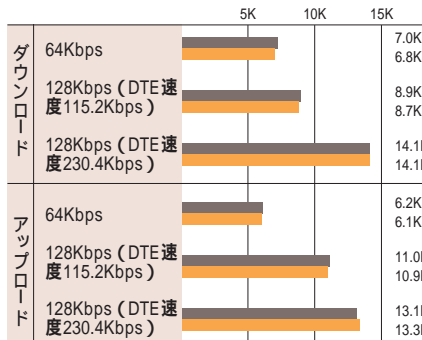


2チャンネル使用したマルチリンク(MP)やBOD機能の設定画面。スループットBODのチャンネル追加について任意の数値設定が簡単にできる。

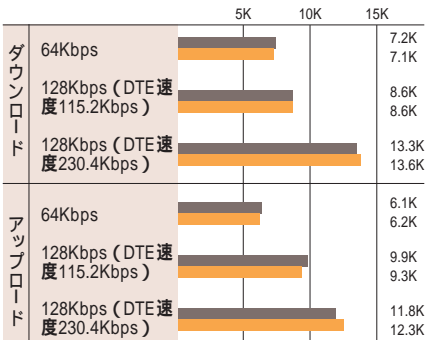
FTPによるファイル転送速度(バイト/秒)

■ テキストファイル ■ バイナリーファイル

Aterm IT65 (Ver2.02)



Aterm IT55 (Ver3.02)



テストには、リムネット東京第三ドメインのユーザーホストを使用した。ペンティアムPro(180MHz)、メモリー64MバイトのWindows95マシンを使用し、WindowsのFTPコマンドでファイル転送を行った。テキストファイル(500Kバイト)とバイナリーファイル(500Kバイト)の2つのファイルをそれぞれ5回転送し、その平均値を採った。転送したファイルは、LHAで圧縮するとそれぞれ42.1%と98.5%に圧縮されるファイルだ。バイナリーファイルはほとんど圧縮効果がないことが分かる。

発売元	富士写真フイルム株式会社
価格	79,800円
問い合わせ	03-3406-2971
付属品	スマートメディア(2M)、専用充電式リチウム電池、ACアダプター
オプション	パソコン接続キット (Win、Mac版各6,500円) バッテリーチャージャー(6,800円) 乾電池ケース(4,000円)
URL	http://www.fujifilm.co.jp/news_r/nrj285.html

色がキレイな3倍AFズーム搭載デジカメ

DS-30

Check!

32 ~ 96mmの3倍AFズーム搭載
高精細低温ポリシリコン液晶を採用
独自のリチウムイオンバッテリー3倍ズーム搭載で、DS-20よりもちょっと
太めになった。

記録メディアはスマートメディアで、5Vと3.3Vの両対応。



このカットはテレ(望遠)側で撮影。最短撮影距離はズーム全域で20cm。マクロストロボモードも追加されている。



ガラス越しの撮影。広角だとどうしても映り込みが気になるが、望遠なら角度によってはキレイに撮れる。

フジDS-30は、ベストセラーのDS-20を3倍AF(オートフォーカス)ズーム化したモデルで、液晶モニターには高精細な2インチ低温ポリシリコン液晶が採用されている。

1/4インチサイズの

CCDや専用リチウムイオンバッテリーを使うことで、AFズーム機としては筐体がコンパクトにまとめられているのが特徴だ。

ワイドに強い3倍AFズームを搭載

DS-30のズームレンズは32~96mm相当と、DS-20よりもワイドに強くなったので、建築物や引きのない室内での撮影に有利。また、ピント合わせもAFになり、望遠撮影でもキチッとピントが合うのは魅力だ。

なお、小型化と動作時間確保のために、電源は汎用の乾電池ではなく専用リチウムイオンバッテリーに変わった。ACアダプターも標準で付属し、DS-30本体内で7時間かけて充電ができる。別売のバッテリーチャージャーなら2時間半の急速充電が可能だ。また、緊急用に単3乾電池を4本使う乾電池アダプターも用意されている。



望遠で撮ると背景をスッキリ整理できるので、狙った被写体を浮かび上がらせることができる。

試用レポート

① やっぱり便利なズーム機能

DS-30の基本的な機能や操作性はDS-20とほとんど同じだが、絞りは手動から自動切り換えに、ピント合わせもAFになったので、シャッターボタンを押すだけのカンタン操作だ。ただ、AFになったことで、シャッターボタンを押してから実際にシャッターが切れるまでのタイムラグは大きくなった。

CCDは1/4インチサイズに小型化したが、従来のCLIP-ITシリーズ同様、色や階調再現は非常にキレイで美しい。液晶モニターが、1.8型MIM液晶から2インチ低温ポリシリコン液晶にグレードアップしたこともあって、一層キレイに見える。ただし、相変わらず見た目のシャープさはイマイチで、輪郭がブレたように不鮮明になってしまう。特に、赤系の被写体は縦縞が出たり、輪郭がギザギザになったりしてしまうので、せっかくの色や階調の良さも台なしだ。

もっとも、3倍ズームで被写体をアップで写せるので、被写体を画面いっぱいに写すようにすれば輪郭の甘さもそれほど気にならない。それに、遠近感が誇張されないのが被写体がデフォルメされて写ることも少ない。そういう意味では、DS-20よりも写りは良くなり、いろいろな被写体も写しやすくなった。やっぱり、ズームがあると便利だ。(伊達淳一)

レンズ	32 ~ 96mm相当
CCD	1/4インチ35万画素 プログレッシブスキャンCCD (原色フィルター)
記録メディア	スマートメディア (3.3V/5V両対応)
最多記録枚数	30枚(2M)
サイズ、重量	132 × 68 × 51mm、290g

色階調の美しさとワイドズームが魅力

DC210 Zoom

Check!

メガピクセルで81,000円
29～58mmの2倍ワイドズーム
ピントが固定なので遠景は甘い

コダックから1/3インチ109万画素CCD搭載のDC210ズームが発売された。価格は81,000円と、メガピクセル機としては破格的な価格設定で、誰もが使いやすいコンパクトカメラタイプのデジタルカメラだ。

通常は光学ファインダーを使って

DC210ズームには、29～58mm相当の2倍ワイドズームが採用されている。ワイド側に強いので、狭い室内や建築物の撮影には威力を発揮する。ただし、ピントは固定で50cmから無限遠までのパンフォーカス。マクロポジションに切り換えると20cmの近接撮影ができる。

背面には1.8型TFT液晶モニターが搭載されていて、マクロポジションにすると自動的に液晶モニターがONになる。ただし、プレビューはカクカクとぎこちないし、シャッターのタイムラグも大きくなるので、通常は光学ファインダーで撮影したほうが快適だ。

記録メディアはコンパクトフラッシュ（CF）で、従来機種のようにコダック独自のKDCフォーマットではなく、JPEG/ExifあるいはFlashPixで記録される。

試用レポート

① 写真のように味のある色階調再現

DC210ズームのレンズは中心部で200本/mmという超高解像力を誇るものの、いかんせんピ

レンズ	29～58mm相当
CCD	1/3インチ109万正画面素 プログレッシブスキャン CCD（原色フィルター）
記録メディア	CF
最多記録枚数	62枚（4M）
サイズ、重さ	131×82×48mm、320g

ント固定のパンフォーカスなので、遠景の描写はかなり甘い。メガピクセルということで、既存の81万画素クラスよりも高精細な描写が期待できると思っている人も多いだろうが、少なくともパッと見た目のシャープさは81万画素クラスのほうが上だ。

ただし、画質というのはシャープさだけで決まるものではない。DC210ズームの魅力は、コダックならではの色と階調だ。特にこのDC210ズームは、これまでのコダックのデジカメよりも日本人好みの味付けになっており、青空は吸い込まれるように青く、木々の緑はみずみずしく再現される。また、従来の機種で見られた肌色の赤みがやや強過ぎるクセも改善されている。



ピント固定のパンフォーカスのため、カリカリのシャープさはないが、色と階調が非常に美しい。



夜明けのレインボーブリッジ。実際よりも赤みが軽減しているが、これはこれで写真的に美しい。

発売元	日本コダック株式会社
価格	81,000円
問い合わせ	03-5488-2390
付属品	CFカード（4M）単3アルカリ電池4本、AV接続ケーブル
オプション	パソコン接続キット （Win版、Mac版各14,800円） ACアダプター（4,500円） 専用カメラバック（1,500円）

URL <http://www.kodak.co.jp/DAI/9d3700f1.shtml>

画像の記録時間は約7～8秒で、あまり速くはないが、記録を途中でキャンセルできる機能がある。目をつぶってしまったなど明らかに失敗と分かるときには、すぐに記録をキャンセルして再撮影できるので便利だ。（伊達淳一）



従来のコダックとはひと味違うユニークなデザインだ。



ワールドワイドモデルのため、操作部や画面表示はすべて英語。



最短撮影距離は20cm。ただしマクロモードではズームがきかない。



添付ファイルの圧縮機能を持つメールソフト

E-mily

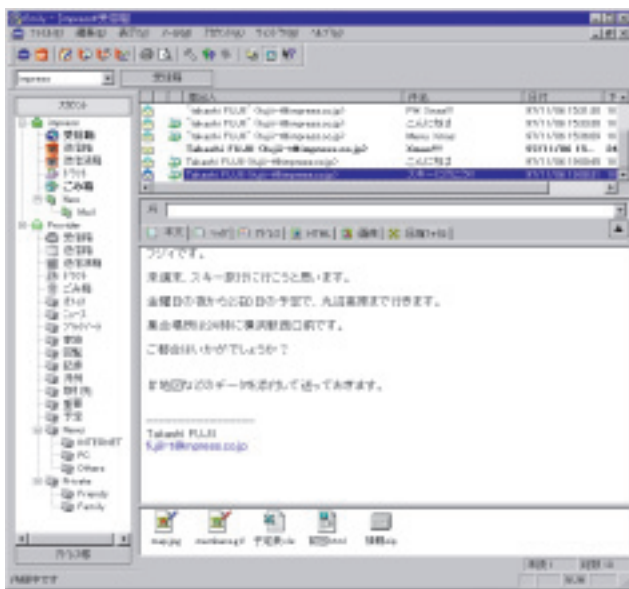
Check!

ユーザーごとの複数アカウント設定可能
階層化されて整理しやすいアドレス帳
ポケベルへのメッセージ送信機能

発売元	株式会社アスキーサムシンググッド
価格	10,000円
問い合わせ	03-5436-7850
対応機種	メモリー16Mバイト以上を搭載した ウィンドウズ95/NT4.0マシン。

URL <http://www.asg.co.jp/emily/index.html>

CD-ROM B収録先
Win Emily



プレビューウィンドウの上のタブをクリックすれば、それぞれの情報を見ることができる。アドレス帳への取り込みや画像を表示することも可能だ。

「E-mily」(エミリー)は、アスキーサムシンググッドから発売された電子メールソフトだ。エミリーで採用されているエクスプローラ風のインターフェイスは、最近のメールソフトの主流になりつつあるようだ。エミリーはフォルダー一覧を非表示にしても、ツールバーをクリックすればプルダウンメニューのようにフォルダー一覧を表示させられるので、画面が小さなノートパソコンなどでも使いやすい。

階層化されたアドレス帳

エミリーは、各ユーザーがそれぞれ複数のアカウントを管理することができる。ユーザー情報やメール情報はパスワードで保護される。

アドレス帳も階層構造になっているので、仕事用とプライベート用、部署やグループごとなどに分類することで、自由度の高い利用ができる。また、Eudoraのメッセージファイルは、そのままインポートして読み込むことができる。

ポケベル送信機能

エミリーならではの機能として、NTTドコモのポケットベル「インフォネクスト」シリーズにメッセージを送信する機能がある。アドレス帳にポケベル番号を登録しておくだけで、最大100文字までのメッセージが送信できる。誰もが使う機能とは思わないが、ポケットベル相手にメッセージを出す機会が多い人には便利な機能だ。

試用レポート

① メッセージはタブで

表示の切り替え

エミリーのプレビューウィンドウには、通常はメール「本文」、「ヘッダー」、「アドレス」のタブがあり、このタブの操作だけで簡単に情報を見ることができる。メッセージにファイルが添付

されている場合には、「画像」や「HTML」、「圧縮ファイル」などといったタブが作られる。

「アドレス」タブには差出人(From)と宛先(To)が表示され、このアドレスを選択して「アドレス帳に追加」ボタンをクリックすれば、ワンタッチでアドレス帳に追加できる。アドレスの追加が、メニューなどを操作することなく、これだけの操作で行えるのは、実際に使ってみると実に快適に感じる。

HTMLメールを受信した場合は、ActiveXコンポーネントによってHTMLが展開表示され、インターネットエクスプローラと同等の表現ができる。ただし、インターネットエクスプローラ3.02以上をインストールしてある必要がある。

② 添付ファイルの圧縮は 初心者にも優しい機能

メール作成画面の「添付」ボタンから「絵を描く」を選択すると、ビットマップ(.bmp)形式のファイルに関連付けられたアプリケーション(ウィンドウズ95の標準では「ペイント」)が起動する。「絵を描く」を選択した時点で添付ファイルが作成されるので、イラストを書き終えたときは「上書き保存」すればいい。

また、添付ファイルを送信時に自動圧縮(.zip形式)する機能もあるので、圧縮のしかたが分からない初心者でも、簡単にファイルを圧縮することができる。画像編集機能などに独自のアプリケーションがほしかった気もするが、普段使っているソフトが使えることで、画像の編集効率が上がると考えるユーザーも多いのかもしれない。なお、付録CD-ROMには体験版を収録しているので、気になる人はぜひ使ってみてほしい。テスト中は、サーバーにメッセージを残す設定にするのを忘れずに。

(編集部)

豊富な画像テンプレートでイラスト付きのメールを作成

メールの王様

Check!

イメージテンプレートが豊富
検索機能の操作性に優れる
半角カナを入力時に全角へと変換

日本アイ・ピー・エムが「メールの王様」を発表した。写真や絵を自由にレイアウトした絵ハガキ感覚の電子メールが簡単に作成できる機能は、この時期「クリスマスカードや年賀状を電子メールで」と考えている人にもいいだろう。もちろん、マルチアカウントやクリッカブルURL、スレッド表示といった定番の機能はサポートしている。メッセージに半角カナは入力できず、自動的に全角に変換される。

使いやすいインターフェイス

「メールの王様」のインターフェイスは、「Becky!」や「Outlook Express」同様、エクスプローラ風に画面左側にフォルダー構造、右上にメール一覧、右下にプレビュー画面となっている。フォルダーの確認からフォルダー内にあるメールの一覧、そしてそのメッセージの内容についてが、このメイン画面だけで確認できる。「メールの王様」は、「Eudora Pro」と「Netscape Mail」からのメールとアドレス帳のインポートをサポートしており、アドレス帳はCSV形式のテキストファイルのインポートも可能。

ダイアルアップに便利な機能

ダイアルアップ向けの便利な機能も「メールの王様」には用意されている。設定した時刻になるとダイアルアップしてメッセージを送受信するスケジューリング機能や、メールのヘッダー情報をチェックしてサーバーにあるメッセージの受信や削除もできる。ダウンロードするメールサイズの上限も設定できるので、サイズが大きいメールはダウンロードしなくて済む。

試用レポート

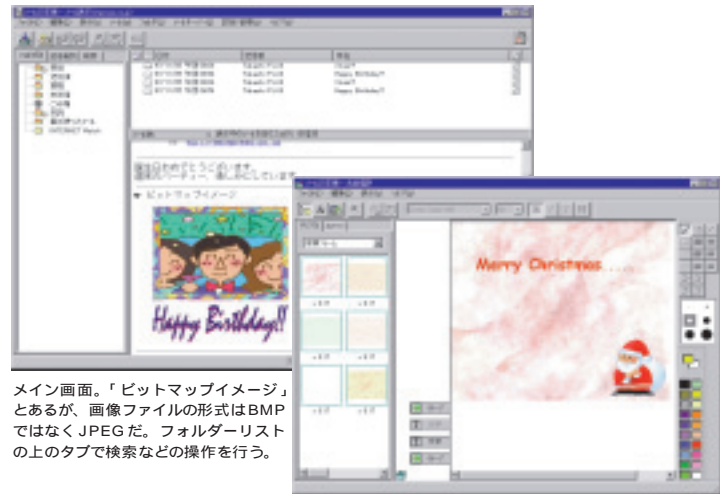
- ① 豊富なテンプレートで「絵ハガキ」メールを作る

「メールの王様」には、画像入りメッセージ作成に豊富なテンプレートが用意されている。年賀状やクリスマスカード、暑中見舞い、結婚祝いなど、一年中いつでも使える素材でいっぱい。TWAINに対応したデジタルカメラから直接画像を読み込むこともできる。

画像を貼り付けたり、文字を入力したりといった作業が1つずつ保存されるので、あとで気になる部分だけ訂正できる。作業の順序を入れ替えることもできるので、あとから、最後に描いたイラスト部を残して最初に描いた背景を訂正するといったことも可能だ。作業を終了した時点で、作成したデータは1枚のJPEGファイルとして保存され、送信時には添付ファイルとして扱われる。

① 必要なメッセージを抽出

最近発表されるメールソフトには、電子メールの整理や管理の機能に注力したものが多く見られるが、この「メールの王様」もメールの分類や整理の機能には工夫が見られる。通常のメールソフトと同様にフォルダーでの整理はもちろん、すべてのフォルダーを対象として、メールを送信者別に表示させることもできる。また、ヘッダー情報や添付ファイルの有無などの条件で検索した結果を、受信画面で表示できる。フォルダーをまたがった検索ができるのも嬉しい。操作も簡単で、画面の左部分（通常はフォルダーが表示されている）のタブをクリックするだけでメールの抽出法を選択できる。メールを大量に管理している人にとって、必要なメッセ



メイン画面。「ビットマップイメージ」とあるが、画像ファイルの形式はBMPではなくJPEGだ。フォルダーリストの上のタブで検索などの操作を行う。

豊富なテンプレートを組み合わせるだけで、このようなクリスマスカードが作成できた。作業手順がイラストの左下に保存されている。

一機能が簡単な操作で抽出できるこれらの機能は、とても貴重すぎるだろう。

ただ、送信者別にメールを分類した際に、アドレス帳に「登録済み」と「未登録」で区別されるのはいいが、未登録のアドレスをここから右クリックなどの操作でアドレス帳に登録できる機能が欲しかった。

① ビジネスでもアフター5でも

「メールの王様」はビジネスでもプライベートでも十分に使える機能を備えたメールソフトだ。イメージファイルの作成は本当に簡単で楽しいので、興味がある方は本誌付録のCD-ROMに収録の体験版を使ってほしい。

余談だが、メールソフトをテストする際には「サーバーにメールのコピーを残す」設定にしておこう。そうすれば、これまでのメール環境を維持しながら新しいソフトをテストすることができる。なお、今回のレポートは製品発売前の版で行ったことを付け加えておく。（編集部）



発売元	日本アイ・ピー・エム株式会社
価格	9,800円
問い合わせ	0120-550-132
対応機種	DX4 (100MHz) 以上のCPUを搭載するウィンドウズ95/NT4.0マシン。10Mバイト以上のハードディスク空き容量。
URL	http://www.ibm.co.jp/software/internet/kingmail/

CD-ROM B収録先
Trial Win Kingmail



発売元	サイバ・メディア株式会社
価格	7,800円
問い合わせ	03-3486-9191
対応機種	486SX以上のCPUを搭載する ウィンドウズ95(日本語版)マシン。 8Mバイト以上のメモリーを内蔵し、 ハードディスクの空き容量が 6Mバイト以上(動作時)。 インターネットに接続できる環境。

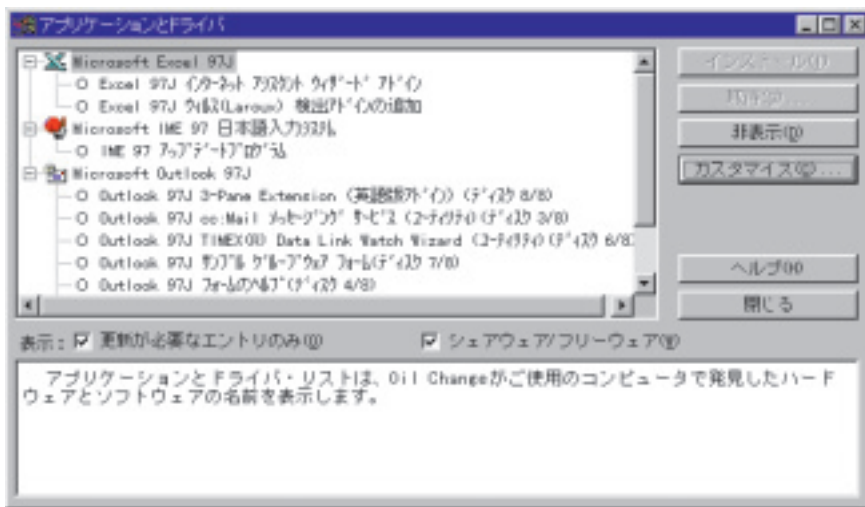
URL <http://www.cybermedia.co.jp/products/oilchange/ochome.html>

ソフトのバージョンをインターネットで自動更新

Oil Change

Check!

バージョンアップ情報が自動的に分かる
ソフトのインストールが一括してできる
サポートソフトの一覧が欲しい



コンピュータのハードディスクをチェックして、アプリケーションやドライバの一覧を表示。

「Oil Change」はインターネットを使ったソフトウェアの自動アップデートソフト。アプリケーションやドライバの最新バージョンをインターネットから探し、アップデート版を簡単に入手することができる。価格には1年間のサービス利用料が含まれる。

バージョン情報をあまり意識しない人に企業内ならば、システムの管理部署がアプリケーションソフトのアップデート情報をエンドユーザーに告知してくれることもあるだろうが、個人ユーザーに対してソフトメーカーが小さな変更をいちいち連絡することはそう多くない。大きな機能改良が伴うアップデートでは、ユーザーからアップデート費用が徴収できるため、積極的に広報活動を行っているが、マイナーチェンジやバグ修正に対するアップデートは無償提供であることが多く、メーカーのホームページでの告知や雑誌などの記事で知るしかないのが現状だ。そのため、いつの間にかアプリケーシ

ョンやドライバのバージョンが古くなっていることがよくある。この「Oil Change」を使うと、専用サーバーが常時把握しているアプリケーションやドライバなどのソフトの最新のバージョンを、購入者のパソコン内にあるアプリケーションやドライバのバージョンと比較して、バージョンアップが可能なソフトのアップデート情報を自動的に配信してくれる。

試用レポート

① バージョンアップ情報を

発売元のサーバーがチェックする「Oil Change」を動作させると、まずインターネット経由でサイバ・メディア社(発売元)のCyber Media Active Helpサーバーにアクセスする。その際にオンライン登録されたユーザーかどうかをチェックし、パソコンのハードディスクのスキャンの後、ソフトのバージョンを確認

する。

サーバーで管理される最新ソフトのバージョンよりパソコン側のバージョンが古い場合は、最新版のダウンロードやインストールができる。各ソフトは、1世代前のバージョンまでは保存されているため、必要があれば最新版から元のバージョンへ復旧することもできる。復旧はソフトごとにできるため、複数のアプリケーションが自動更新されても、それぞれ個別に元のバージョンへと戻せる。

操作は簡単で、スタートボタンをクリックするだけで、サーバーへの接続、ソフトウェアバージョンのチェックを行って、更新されたソフトがリスト表示される。項目を選ぶと、そのバージョンの情報が表示され、どのアプリケーションが変更されたかが分かる。内容を確認し、更新すべきソフトがあれば、選択後に「インストール」をクリックする。ダウンロードするだけならば「取得」をクリックする。通話料金の安い深夜にダウンロードさせておくこともできる。

② サポートソフトは公表してほしい

「Oil Change」でサポートするソフトは随時更新されるため公表されておらず、持っているソフトがサポート対象なのかサポート外なのか分からない。更新されていないと思っていたら、単にサポート外だったとなると使えない。せめて自分のパソコンのハードディスクでチェックしたソフトを、サーバーがサポートしているか否かの情報は表示してほしい。

このようなソフトのアップデートに限定したプッシュ技術は、環境(サポートソフトウェア数)が充実すれば、利用者が情報を求めて歩く手間を省いてくれる。組織内のエンドユーザーに各ソフトのアップデート情報を知らせる管理者は、まず試してみることをすすめる。

(菊地宏明)



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp